ブラザーの歴史

お客様と社会のニーズに応え、事業を変革し、成長してきた軌跡

ブラザーグループは、1908年にミシン修理業として創業して以来110年を超える歴史の中で、事業の多角化、グローバル化を推進してきました。いつの時代も私たちの活動の根底にあるものは、あらゆる場面でお客様を第一に考える“At your side.”の精神です。これからも、常にお客様の立場でニーズにお応えすることを価値創造の原点とし、変革を恐れずに時代や環境の変化に対応しながら培った競争優位性を発揮することで、価値を創造、提供し続けます。

設立趣意書

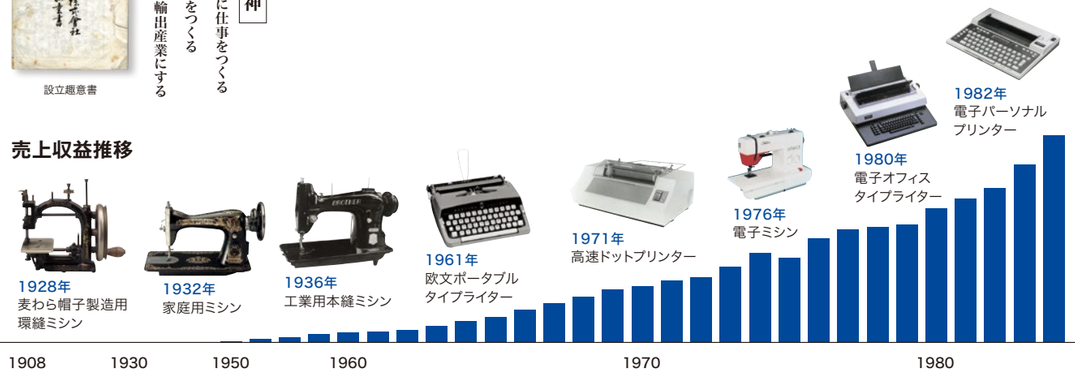
創業の精神

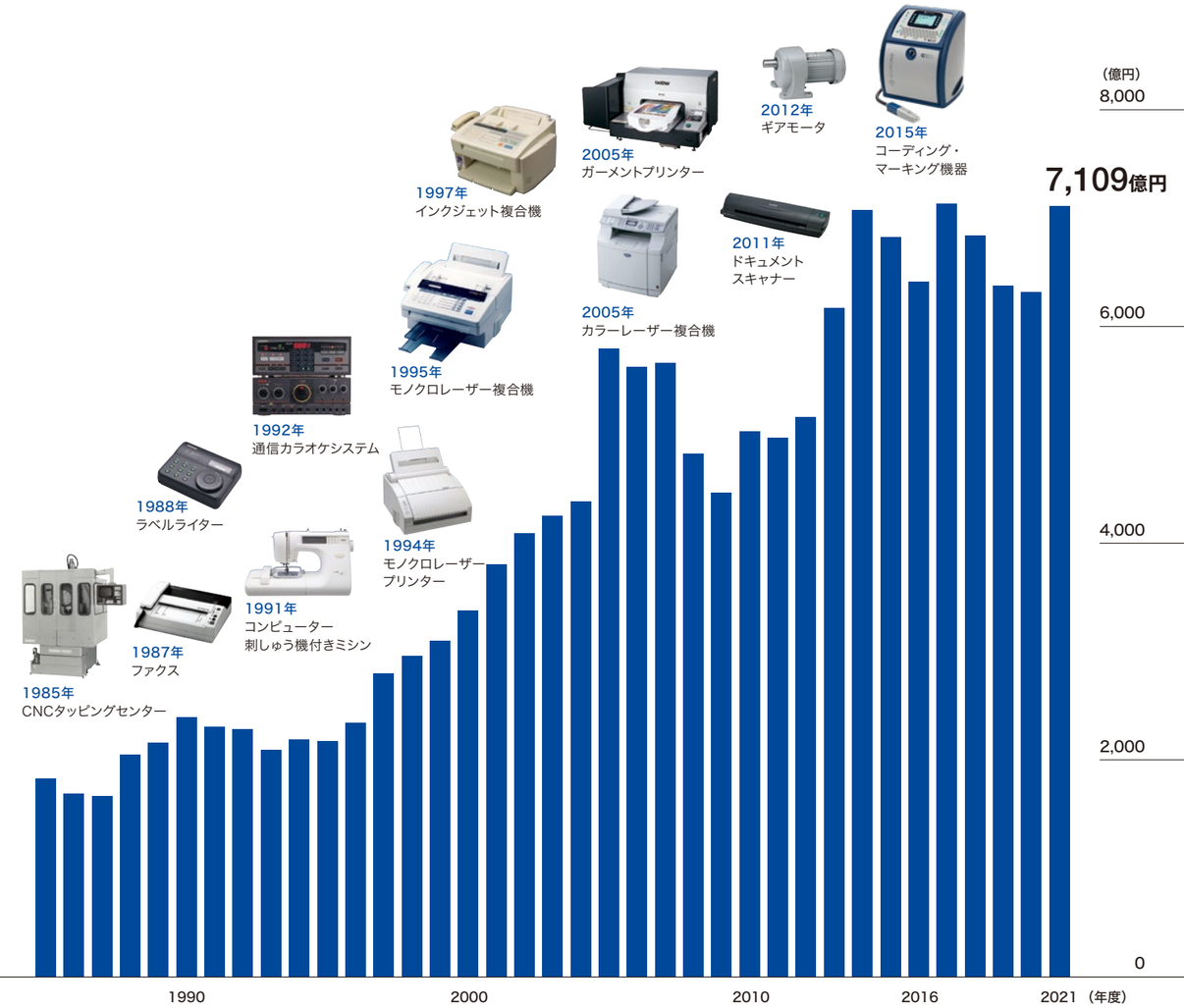
一、働きたい人に仕事をつくる
一、愉快な工場をつくる
一、輸入産業を輸出産業にする

すべての創造の原点は、“At your side.”

1908年にミシンの修理業から始まり、創業者である安井兄弟は修理を通じて得た製品知識を生かして、壊れにくい国産ミシンをつくるために、ミシン本体の開発に取り組みました。生産設備のための資金がないため、自分たちで工場を整備しながら創意工夫をこらし、1928年、念願の「麦わら帽子製造用環縫ミシン」を完成させました。発売したミシンは外国製ミシンより高い耐久力を持つと評判を呼び、お客様に喜ばれ、また国内産業の活性化にも貢献しました。ブラザー工業の前身となる「日本ミシン製造株式会社」は、1934年に設立されました。設立趣意書には、ミシン国産化を志した動機が示され、起業による社会課題解決への熱い思いが込められていました。事業を通じて社会へ貢献するという「創業の精神」が受け継がれ、現在は”At your side.”の精神として、世界中の従業員に浸透しています。

売上収益推移





※ 2015年度以前は日本会計基準の売上高、2016年度以降は国際会計基準（IFRS）の売上収益を掲載しています

ニーズを背景にした成長のターニングポイントと培ってきた競争優位性

創業～

ミシンの国産化とコア技術の応用による多角化

1908年、創業者兄弟の父・安井兼吉がミシンの修理業で創業。当時の日本は精密工業製品であるミシンを輸入に頼っており、不況で仕事がない中、家業を助けていた長男の正義は「働きたい人に仕事をつくる」「ミシンの国産化を実現し、輸入産業を輸出産業にする」ことを決意。兄弟で力を合わせ、1928年に麦わら帽子製造用の環縫ミシンを開発。1932年には念願の国産家庭用ミシンを完成させた。その後1947年にミシンを初輸出。1954年には米国に拠点を設けるなど海外展開も果たした。またミシンで培った技術を生かし、多角化に着手し、編機や洗濯機、掃除機などの家電機器を開発した。

1960年～

事務機分野進出と自前主義で磨いた工作機械開発

米国市場のニーズの高まりを受け、1961年にポータブルタイプライターの生産を開始。手ごろな価格で他社に引けをとらない性能が好評を博し、事務機のブラザーとしての基盤をつくった。また「製品をつくる機械も自社でつくる」という考えのもと、創業時より自社で開発していた工作機械の外販事業を開始。優れた加工性能から、タッピングマシンがロングセラーとなった。1966年にはエレクトロニクス技術を用いた初の製品として電卓を開発し、事務機分野を強化。欧州での自社拠点の整備を進めるとともに、1968年にイギリスの大手ミシンメーカーを買収するなど、海外事業を拡大した。

1970年～

情報機器分野進出とメカトロニクスの推進

小型コンピューター（ミニコン）の普及が進む中、ミニコンに対応するプリンターの選択肢が限定されているのに着目し、1971年に米国のベンチャー企業・セントロニクス社と共同で高速ドットマトリクスプリンターを開発。新たな市場を創出し、その後の情報機器事業拡大のきっかけとなった。各製品の電子化も次々と進め、1979年には業界初の家庭用コンピューターミシンを、1980年には電子オフィスタイプライターを発売。加えて工作機械分野においても、NC工作機械を相次いで発売し、メカ技術にエレクトロニクス技術を加えた「メカトロニクス」への転換を図った。

1980年～

プリンティング技術の蓄積と事業変革

1981年、ロサンゼルス五輪のオフィシャルサプライヤー契約を機に、グローバルにブランド戦略を展開。1982年にはサーマル印字技術を採用した世界最小の電子パーソナルプリンター、1984年には業界初の普及型日本語ワードプロセッサーを発売するなど、ユニークな製品が話題を集めた。この開発プロセスで培ったサーマル印字技術や仮名漢字変換技術を応用し、1988年にラベルライターを発売。ピータッチのブランド名で新市場を創出した。また貿易摩擦や円高に対応するべく、海外生産を拡大。事業の集中と選択にも着手し、家電・楽器事業から撤退するとともに、情報通信分野への投資を強化した。

1990年～

通信カラオケの開発と情報通信機器の拡大

パソコンソフトの自動販売機の開発で培ったコンテンツ配信技術を活用し、1992年に業界初の通信カラオケを発売。また同年、個人オフィスや小規模オフィス向けに開発し、機能を差別化した上で価格を抑えたファクスが大ヒットした。1995年にはファクス・プリンター・コピーなどの機能を一台に集約した小型複合機を発売。レーザーおよびインクジェット方式をラインアップに加え、新興のオフィス向け製品の量販店の拡大とともに事業を急拡大させた。グローバルでの最適調達・最適生産を目指しアジアでの情報通信機器の生産を開始するとともに、販売会社の資本を再編し「つくる・売る」を一体化させた。

2000年～

情報通信機器の拡大と事業ポートフォリオ強化

中国に加え、ベトナム、フィリピンでの生産を開始し、欧州に消耗品のリサイクル拠点を設けるなど、グローバルに生産基盤を強化。販売拠点も拡充し、グローバルベースで事業基盤を整備。情報通信機器を中心に事業規模を大幅に拡大した。2002年には中長期ビジョンを策定。2008年にはすべての活動の礎であるグローバル憲章の改定を行い、“At your side.”な企業文化を定着させた。またM&Aにより、モバイルプリンターや減速機などを事業ポートフォリオに加え、2015年にはイギリスのドミノプリンティングサイエンスの全株式を取得し、産業用印刷事業に参入。産業用領域での事業拡大を推し進めている。

培った競争優位性

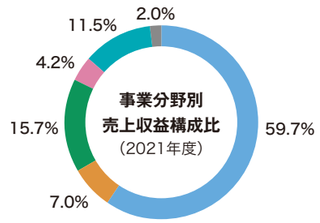
- 創業～
  - ▶ 創業の精神
  - ▶ プレス技術・精密加工技術
  - ▶ 自社海外販売ルート
  - ▶ コア技術の活用
- 1960年～
  - ▶ 海外顧客のニーズを取り入れた製品開発
  - ▶ 事務機分野の開発力、量産体制
  - ▶ 工作機械分野の精密加工技術
  - ▶ 海外拠点の拡充と市場開拓力
- 1970年～
  - ▶ 共同開発により新事業を創出する力
  - ▶ ドットインパクト印字技術
  - ▶ 電子化によるメカトロニクス技術
  - ▶ コンピューター制御技術
- 1980年～
  - ▶ グローバルブランディング
  - ▶ サーマル印字技術
  - ▶ 為替変動対応力と海外生産力
  - ▶ 情報通信技術
- 1990年～
  - ▶ コンテンツ配信技術
  - ▶ 電子写真技術・インクジェット印字技術
  - ▶ ビジネスパートナーとの協業
  - ▶ グローバル調達・生産体制
- 2000年～
  - ▶ グローバルな事業基盤
  - ▶ “At your side.”な企業文化の定着
  - ▶ M&Aにより強化された事業ポートフォリオ
  - ▶ 産業用印刷分野の開発・販売力

ブラザーの事業

培った競争優位性を生かし、事業を通じて お客様の生産性の向上と創造性の発揮に貢献します

ブラザーグループは、お客様のニーズに応えるために、変革の歴史の中で培った競争優位性を生かしながらモノ創りを通して事業を成長させてきました。現在では、「プリンティング・アンド・ソリューションズ事業(P&S)」「マシナリー事業」「ドミノ事業」「ニッセイ事業」「パーソナル・アンド・ホーム事業(P&H)」「ネットワーク・アンド・コンテンツ事業(N&C)」の6つの事業を通して、お客様の生産性の向上と創造性の発揮に貢献することで顧客価値の拡大を図っています。

連結売上収益 **7,109億円**(2021年度)



- **プリンティング・アンド・ソリューションズ事業**
  プリンター／複合機／ラベルライター／ラベルプリンター／スキャナーなど
- **パーソナル・アンド・ホーム事業**
  家庭用ミシン／カッティングマシンなど
- **マシナリー事業**
  工業用ミシン／ガーメントプリンター／工作機械／減速機／歯車など
- **ネットワーク・アンド・コンテンツ事業**
  業務用通信カラオケシステム／カラオケ店舗運営／コンテンツサービスなど
- **ドミノ事業**
  コーディング・マーキング機器／デジタル印刷機など
- **その他事業**

※ 2022年度から一部事業のセグメント区分を変更しています
※ 2021年度の事業別売上収益構成比は従来のセグメント区分で表示しています

ブラザーの事業

プリンティング・アンド・ソリューションズ事業
P&S

P.30-31 参照

コンパクト性を追求したオフィス・家庭向けのレーザーおよびインクジェットプリンター・複合機、家庭向けから業務用まで幅広いラインアップを持つラベルライター・ラベルプリンターなどを通じ、変化し続けるお客様のビジネスシーンを支えます。

マシナリー事業
Machinery

P.32-33 参照

自動車や一般機械などの部品加工に最適な工作機械に加え、使いやすさ、高品質な縫製、省エネを実現した工業用ミシン、衣料品のデジタル印刷ニーズに応えるガーメントプリンターなどを通じて、お客様の生産性向上と新たな価値創出に貢献しています。

ドミノ事業
Domino

P.34-35 参照

ペットボトル、缶、食品の包装などに賞味期限、ロット番号などを印字するコーディング・マーキング機器（C&M分野）と、商品パッケージの多種少量化や短納期化に応えるデジタル印刷機（DP分野）を提供し、消費者保護やトレーサビリティ※の確保、工場における生産性向上などに貢献しています。

※ 栽培や飼育から加工・製造・流通などの過程を明確にし、記録を保存すること

ニッセイ事業
Nissei

P.36 参照

幅広い製品バリエーションを持つギアモータ、産業用ロボットやFA機器の駆動を担う高剛性減速機、高精度・ 高品質な歯車などを通じて、拡大が予想される自動化・省人化分野など、多様化する顧客ニーズに的確に対応し、お客様の価値創出に貢献しています。

パーソナル・アンド・ホーム事業
P&H

P.37 参照

家庭用ミシンを中心に、カッティングマシンなど、お客様の創造性の発揮を支援する製品やサービスで、手作りの楽しさを提案しています。高級刺しゅう用ミシンでは、IoTを活用し手作りの新しい可能性を広げます。

ネットワーク・アンド・コンテンツ事業
N&C

P.38 参照

業務用通信カラオケシステム「JOYSOUND」を開発・提供するとともに、通信カラオケで培った配信技術を活用したサービスや製品・コンテンツを提案することで、新たな顧客価値を追求しています。

みるハコ　キョクナビ

提供価値

- 高い生産性と環境性能で働く人々の課題を解決する
- さまざまなものへの情報付加により安心・安全や業務効率化を実現する
- お客様と永くつながることで多様なワークシーンを支え続ける
- 創造性の発揮や楽しさを通じて人々を心豊かにする

ブラザーグループビジョン
At your side 2030

ブラザーの価値創造プロセス

“At your side.”の精神を軸に、顧客価値を拡大することにより、社会の発展と地球の未来に貢献し、持続的成長を図ります

中期戦略「CS B2024」あたらしい未来へのテイクオフ
持続可能な未来に向けた経営基盤の変革

事業ポートフォリオの変革

インプット
多様な独自技術とグローバルネットワーク

社会関係資本 P.29 参照
- グローバルな顧客基盤
- ともに成長するグローバルなビジネスパートナー※1
- お客様やビジネスパートナーとの信頼関係から得られる情報

人的資本 P.26-27 参照
- “At your side.”の精神に共感し、世界中で活躍する自律型従業員
- 各機能の高度な連携を支える グローバルチーム
- フラットで風通しの良い組織風土

知的資本 P.28 参照
- 創業以来の事業の多角化で培った民生用・産業用両面でのモノづくり技術
- 自社開発による多様なプリンティングエンジン
- 全世界特許保有件数 約3万件※2

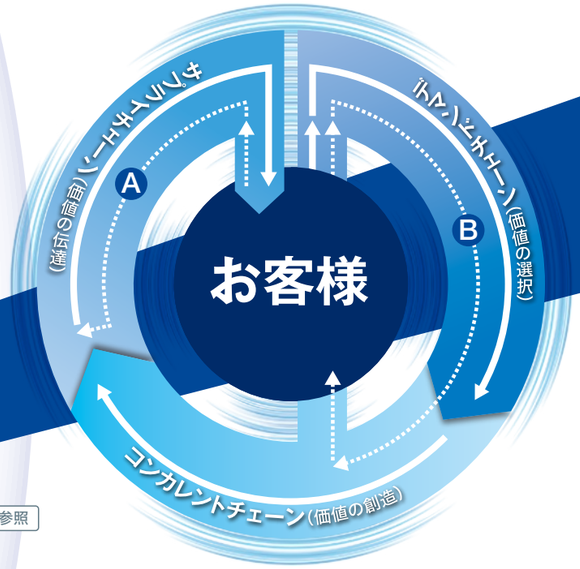
製造資本 P.29 参照
- グローバルな生産拠点
- コスト競争力と柔軟性の高い生産体制

自然資本 P.42-43 参照
- 資源消費量（製品原材料）208,168t※2
- 総エネルギー消費量（原油換算量）47,564kL※2

財務資本 P.24-25 参照
- 強固な財務基盤
- 未来に向けた先行投資 1,500億円※3

ビジネスモデル
ブラザー・バリュー・チェーン・マネジメント（BVCM）の進化

お客様の成功へのボトルネックを見つけ、解消するためのマネジメントシステム。
お客様を起点に、各チェーンの機能が高度に連携し、外部パートナーとも協働しながら、優れた価値を創造し、迅速に提供する。 P.23 参照



⇨ BVCMの基本プロセスの高度化・高速化

Ⓐ 循環型経済に向けたチェーンの双方向化

Ⓑ 産業用領域を中心とした開発段階におけるお客様からのフィードバックに基づく迅速な製品改良

アウトプット
民生用から産業用にわたる多様な製品・サービス・ソリューション

新規事業の創出

働く人々の生産性と創造性を支える

地球の未来に貢献する

アウトカム
マテリアリティの解決

- 責任あるバリューチェーンの追求
- 多様な人々が活躍できる社会の実現
- 人々の価値創出の支援
- CO_2排出削減
- 資源循環

ブラザーグループビジョン
At your side 2030

世界中の“あなた”の生産性と創造性をすぐそばで支え、社会の発展と地球の未来に貢献する

At your side.
ブラザーグループ グローバル憲章

※1 販売チャネルや部材サプライヤーなど、ブラザーグループの価値提供の過程に関わるすべてのお取引先
※2 2021年度実績　※3「CS B2024」目標